

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190201319), 法人名 ((有)おいらーく), 事業所名 (認知症対応型共同生活介護グループホーム 夢 ひまわりユニット), 所在地 (札幌市東区東苗穂13条2丁目24-35), 自己評価作成日 (令和2年2月10日), 評価結果市町村受理日 (令和2年6月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○その人らしさのシートをひとりずつ作成し、その人それぞれの能力や性格などを尊重する介護を取り入れている。シートや家族からの情報により、以前習っていた生け花や体操の号令掛け、仲居の仕事で培った能力を活かし毎食後の下膳、毎日行っていた裁縫能力を活かしズボンのほつれや補修、農家で行っていた畑作業など日常的に行えるもの他、季節に応じた取り組みを、その方中心で行えるよう支援している。
○日中、活動的に過ごし、夜間睡眠薬や安定剤に頼らず良眠できるスリープマネジメントに取り組み、その成果を事例研究発表会で発表。入居者本位のサービスの質の向上に向け努力している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvsvaCd=0190201319-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年5月27日 (令和元年度分))

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄りのバス停から至近距離にあり、近くのコンビニや大型スーパーで利用者は買い物をしている。住宅街に立地し、2階建てで1階は、デイサービスと地域交流の場にもなる多目的室がある。月1回サロンとして開放し、デコクラフトやパッチワーク、体操教室等が開催され、利用者も訪れている。運営推進会議や事業所祭り、餅つき大会等の行事には多数の家族参加と協力があり、共に利用者を支える関係にある。担当職員を中心に「利用者の夢を叶える取っ手」として、意見や要望の汲み取りに努めている。日々の活動に対して支払われる事業所内通貨を貯めて、釣り堀や買い物、美術館、郵便局巡りをしたい等が順次叶えられている。職員は、利用者の得意分野を引き出し、生活リハビリとして活動量を増やして安眠に繋げるなど、その人らしさを大切にしている事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時にスタッフで唱和し、共有、実践につなげるよう努めている。	法人理念を基盤とした事業所目標を「その人らしさを大切に」と定めている。さらに「優しい言葉遣い」などユニット毎に目標を立て、全体会議で実践の確認が行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や中学生との交流、七夕のお菓子のプレゼントや避難訓練、公園清掃、散歩時の挨拶など、交流を図っている。	夏祭りなど事業所行事はチラシで地域に伝え、協力や参加が得られている。多目的室を月1回地域に開放し、体操や手芸教室等が開かれ、利用者も足を運んでいる。また、盆踊りに参加したり、中学生との交流等で程よい刺激に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度の予防教室、2ヶ月に一度の運営推進会議にて発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に状況報告や話し合いを行い、その際に出た要望や意見はサービス向上につながるよう活かしている。	会議は、行政や地域住民と多数の家族が出席し、定期的に開催している。映像で日常生活を報告しており、家族始め出席者から好評を得ている。さらなる会議の活性化に向け、地域や知見者などに出席要請を検討している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心に行っており、随時連絡を行い協力関係作りに取り組んでいる。	管理者は、区の管理者連絡会の役員を担っていたこともあり、行政とは協力関係を築いている。課題が生じた時は常に連絡を取り、また、研修会や集団指導等で得た学びや情報を運営に反映している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、毎月の会議にて、全職員へ再確認を行っている。	身体拘束をしないケアを基本とし、マニュアルの整備、定期的な適正化委員会や研修会を開催し、正しい理解に繋げている。センサーマット使用時は家族の同意を得るなど、身体拘束の弊害を認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やその他資料を基に内部研修にて勉強会を行っている。日々の介助の見直しも定期的に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学ぶ機会がある。実際に個々の必要性を関係者と話し合った実績は今のところない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が中心に行っており、十分な理解と納得を得られるまで対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議や年に2回のアンケートを行い、意見や要望など検討し運営に反映している。	来訪時に利用者の様子を報告しているが、毎月の「夢便り」でも日常の暮らしぶりを写真で紹介している。家族が訪れやすい雰囲気や機会を作り、さらに利用者や家族にアンケートを実施するなど、要望の把握に努め、業務改善を図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じ面談を設けたり、全体会議にて職員の意見や提案を聞き、反映している。	職員は居室担当や業務を分担し、資質向上に努めている。管理者やリーダーは、業務の中で職員の意見や提案を傾聴し、運営やケアに生かしている。代表者との面談もあり、職員は意見を述べている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末の面談の他、必要に応じて面談を設けるなど個々の対応を行い、環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修を積極的に提案し、働きながらスキルアップできるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和みツアーやフォーラムなどグループ内にて交流する機会がある。その他介護技術の勉強や研修、会議や委員会等にて勉強する機会もありサービスの質の向上への取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談や電話などで困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談や電話などで、家族の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談やアセスメント時に必要としていることを見極め、ユニットスタッフと話し合い、検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活に必要なことを一緒に行い、共に暮らす者同士の関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや電話、担当者会議、行事、面会時等に交流を取り、共に本人を支えていく関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への協力をお願いし、出来る限りの支援を提供できるよう努めている。	情報の中から、会いたい人、行きたい所を把握し、買い物や趣味活動等を支援している。大晦日に家族がお節料理持参で訪れ、多目的室で利用者と過ごした事例がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや日々の活動にて行っている。必要に応じ席替えや衣替えをし、関わり合える工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去やサービス終了後も必要に応じ、相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの立場になって考え、本人本位になる介護を検討している。	その人らしさのシートを一人ひとり作成し、意向や要望に応えられるよう取り組んでいる。誕生日は要望に沿って回転寿司に同行するなど、家族の協力を得ながら生活の充実に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に協力していただき、「その人」の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを通し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や担当者会議、訪問診療時に話し合い現状に即した介護計画を作成している。	日常的に利用者や家族に暮らしへの要望を問いかけているが、介護計画作成時も傾聴している。医療従事者の意見も踏まえ、会議で適切な支援目標になるよう検討している。計画書に沿った記録の整備に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や業務日誌、ユニット会議にて情報共有し、計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や訪問看護師、全スタッフにて多様な視点から意見が出るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や配食サービス、ボランティア訪問など様々な資源を活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期診療や家族付き添いでの受診にて関係が築かれている。必要に応じすぐに相談、往診の対応をして頂ける環境になっている。	医療機関は、利用者や家族の意向を優先しているが、現在は、全利用者が月2回の往診医を主治医としている。他科受診は家族が対応し、健康状態を共有している。週1回、24時間連絡体制の看護師による健康チェックが行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の健康管理や夜間、土日祝日なども24時間相談ができ、適切な受診や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の看護師や相談員と情報交換や退院時の相談等を行い、関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に家族へ説明を行ったり、往診先でもアンケートを取るなどし、スムーズに支援に取り込める体制になっている。	利用開始時に重度化に於ける対応指針を説明し、同意を得ている。看取りの勉強会を経た職員は、医療従事者や家族と情報を共有し、その人らしさを大切に支援に取り組んでいる。利用者が大切にしていた衣裳を身につけて旅立った事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や外部研修を通し訓練を行い、実践できるよう力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	あらゆる災害を想定した避難訓練を行うことで全職員が方法を身に付けている。また訓練時に地域の方に参加して頂き、協力を得られる体制作りを行っている。	マニュアルを整備し年2回、併設の事業所と合同で日中・夜間想定火災避難訓練を行っている。消防署や防災業者の立ち会いはあるが、地域住民の参加が得られていない。非常時は、法人や系列事業所とは協力体制にある。	改定のハザードマップで事業所周辺の危険要所を確認し、地震、停電を含む自然災害の訓練や、併せてケア場面の対応に期待したい。さらに地域との協力体制の強化、家族への避難場所の周知にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に日常の関わり方を確認し、人格尊重や誇り、プライバシー確保の対応を心がけるよう努めている。	新人オリエンテーションを年2回実施し、適切なケアの在り方を伝えている。管理者やリーダーは、業務の中で助言を行い正しい理解に繋げ、利用者が自分らしい生活を送れるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定的な言葉かけをせず、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、一人ひとりの希望に添える支援を提供できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ゆっくり洗面所を使い、好きなように化粧やヘアセットを行っている。ご自分で行えない方も、訪問理美容や行事時にヘアアイロンを使用したり、化粧を行うなどで対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や下膳やテーブル拭き、洗い物など行っていただき、食事中は会話を挟むなど楽しい時間となる工夫をしている。	週3回、業者から昼食が届いている。お寿司の持ち帰りや惣菜コーナーで、利用者は好みの物を選び居間で食している。ベランダでお弁当を広げ、また、菜園の野菜を利用してポテトサラダを作り、サンドイッチにしたり、彼岸にはお萩作りを利用者と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や栄養士にも相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科に相談している。毎食後に口腔ケア、口腔ブラシ等で清潔保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録にて排泄パターンを分析し、失敗する前にトイレ誘導し、なるべく排泄の自立に向けた取り組みを行っている。	利用者の状態もあるが、「トイレに行きたい」との意向を尊重し、トイレでの排泄を基本として支援している。布下着と衛生用品を使い分け、利用者が不快にならない取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に看護師や医師に相談したり、腹部マッサージや普段の食事や活動などで自然に排便できるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせる事が難しい。入浴時は入浴剤や会話、歌など楽しめる時間になっている。	日曜日以外に週2回の入浴を基本としている。自力入浴を見守り、複数介助も行い湯船で寛げるよう支援している。入浴時間は、意向が把握できることがあり、コミュニケーションを大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の休みたいタイミングで休息できる。室温や騒音など配慮し、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変更になった際は個人記録に詳細に変化を記入し、状況に応じ医師へ相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事やレクリエーション、たまの外出の他、行事時にノンアルコールやケーキなど気分転換に繋がることを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭への散歩、近所の散歩や買い物、夕食、花見など地域や家族と協力しながら行っている。	日光浴を兼ねて庭や周辺の散歩、菜園の手入れ、コンビニに買い物に出かけている。ドライブを兼ねて公園で桜や紅葉見物、道の駅でソフトクリームを食している。個別外出支援や家族対応で、夕食に出かけている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則施設管理だが、施設内通貨で希望に沿った使い方を一緒に考え実践に向けた取り組みを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時家族へ電話をするなどの対応を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に装飾を作る、その季節に合った制作などで工夫をしている。	利用者と花壇の花を摘み共用空間に活けたり、折り紙で製作した季節感ある作品や、貼り絵等を飾っている。食卓セットやソファを設置している居間には新聞や図書コーナーがあり、利用者は居心地の良い場所で、自分の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は好きな場所、話したい人同士で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた馴染みの物を入れ、本人と家族で配置している。	備え付けのクローゼットがある居室から、庭に設えたバードテーブルを眺めることが出来る利用者もいる。馴染みの家具は動線に配慮して置かれ、大切な写真等を飾るなど、安心して暮らせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できること」や「わかること」を把握し安全かつ自立した生活が送れるよう、出来る限りの工夫をしている。		